

先生各位

百日咳抗体の検査方法と出検方法のご案内

謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素はひとかたならぬお引き立てを賜わり厚くお礼申し上げます。

さて先日、香川県の大学におきまして、42名の学生が百日咳とみられる症状を呈し、10日間休講するとの発表がありました。本事例をもって昨今の麻疹（はしか）のように広範な流行につながるかどうかは不明ですが、下記に百日咳抗体の検査方法と出検方法についてまとめましたので、ご案内申し上げます。

今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

1. 百日咳感染診断

出検方法と感染診断基準：(1) (2) のいずれかの検査方法で診断します。

(1) 細菌凝集反応：急性期と回復期のペア血清で、抗体価の4倍以上の上昇を確認します。
一般的には、抗体価は感染後3～6週間でピークをむかえます。

(2) EIA法：(1)と同様にペア血清にて、抗体価の有意の上昇を確認します。
一般的には、抗PT抗体（抗百日咳毒素抗体）は感染後約3週後に、また、抗FHA抗体（抗繊維状血球凝集素抗体）は約16週後にピークをむかえます。

2. 既往感染者の確認

出検方法と診断基準：細菌凝集反応、EIA法いずれかの検査方法で基準値以上の抗体価を確認します。

3. ワクチン接種者の確認

出検方法と診断基準：(1) (2) のいずれかの検査方法で診断します。

(1) 1981年以前の死菌ワクチン接種の場合：細菌凝集反応（当時のワクチン株は東浜株でした）
あるいは、EIA法で基準値以上の抗体価を確認します。

(2) 1981年以降の無菌体ワクチン（コンポーネントワクチン）接種の場合：EIA法で基準値以上の抗体価を確認します。

下記に上述の検査方法の検査要項を掲載いたします。

検査コード	検査項目	検体量 mL	保存 条件	容器	実施料 判断料	所要 日数	検査 方法	基準値
0824	百日咳抗体	血清 0.3	冷蔵	A1	80 免疫	5～9	細菌凝集 反応	東浜株：10倍未満 山口株：10倍未満
1554		血清 0.5	凍結	A2	280 免疫	8～12	EIA法	参考値：カットオフ値 10 EU/mL

注) 感染診断におきまして、ペア血清にて有意な上昇を認めなくても百日咳を否定できません。臨床症状と合わせてご判断ください。